

# 成形伸縮目地材

評価の内容（申請資料に基づき、次の事項を確認している。）

## 1. 評価対象建築材料

評価の対象とした成形伸縮目地材は、標準仕様書 9 章 2 節に規定する成形伸縮目地材としている。

形状による区分は、以下のとおりとしている。

付着層タイプ	保護コンクリートに対する付着層を備えたキャップと本体を組み合わせ、所定の品質を有する目地材。
アンカータイプ	保護コンクリートに対するアンカー効果を備えたキャップと本体を組み合わせ、所定の品質を有する目地材。

用途による区分は、以下のとおりとしている。

高さ可変型	高さの可変範囲が 20 mm 以上のもの。
高さ固定型	高さの可変範囲が 20 mm 未満のもの。

## 2. 品質・性能等

### (1) 材質等

主要資材の材質および資材メーカーから製造所への納入ルートを確認している。

### (2) 寸法

(イ) 寸法は、標準仕様書 9.2.2 (11) (ア) の規定との整合性の他、以下の内容を確認している。

項目	寸法	項目	寸法
キャップ高さ	25 mm 以上	ベースの最低かぶり長さ (可変形のみ)	10 mm 以上
キャップの最低かぶり長さ (可変形のみ)	15 mm 以上	ベース幅 (可変形のみ)	本体幅 + 40 mm 以上

### (3) 機能

保護コンクリートの上面から下面にまで達するよう、高さの調整が可能なことを確認している。

### (4) 品質

(イ) 外観は、以下の内容を確認している。

- (a) 裂けた箇所、切断箇所、折れ曲りおよび破損箇所がないこと。
- (b) 異常に粘着する部分がないこと。
- (c) 固定時に仕上げに支障をきたす異常な湾曲、起伏がないこと。
- (d) 保護コンクリートの上面から下面まで達するよう、高さの調節が可能なこと。

(ロ) 寸法許容差（プラス側は規定しない。）は、以下の内容を確認している。

項目	寸法許容差	項目	寸法許容差
キャップ幅	-2.0%	長さ	-0.5%
本体幅	-10.0%	ベース幅	-5.0%

## 成形伸縮目地材

### (5) 性能

性能は、標準仕様書表 9.2.1 の規定との整合性の他、以下の内容を、実施要領に規定する試験機関による試験結果等で確認している。

項目	品質・性能
本体	保護コンクリート層のムーブメントに対して所定の柔軟性等緩衝材としての性能を有しているもの。
キャップ	所定の寸法安定性、耐荷重性、耐摩耗性、耐衝撃性および保護コンクリートとの接着性を有し、付着層タイプにおいては水密性のある付着層を組み合わせたもの。
ベース	防水層を傷つけない材料とし、本体が容易に固定できるもの。
耐摩耗性能	温度条件：20±2℃ 1,000 mg以下
耐衝撃性能	温度条件：20±2℃ 高さ 1.5mからの落下衝撃で、試験体 3 体ともキャップの表面にひび割れや破断がないこと。

### 3. 試験方法

- (1) 圧縮性能試験は、JIS K 7220 (2006)「硬質発泡プラスチック—圧縮特性の求め方」に準じて、20±2℃および 60±2℃において、圧縮速度 1.0 mm/min で、0～30%の圧縮を行う。
- (2) 伸び性能試験は、JIS K 7220 に準じて、-20±2℃および 20±2℃において、引張速度 1.0 mm/min で、0～30%の引張りを行う。
- (3) 耐摩耗性能試験は、JIS K 7204 (1999)「プラスチック—摩耗輪による摩耗試験方法」に準じて行う。
- (4) 加熱収縮性能試験は、JIS A 5756 (2013)「建築用ガスケット」に基づく加熱収縮率試験に準じて、70±2℃において 168 時間加熱した後、標準状態で 4 時間放置する。
- (5) 耐衝撃性能試験は、JASS 8 (2022)「防水工事」の「付.8 T-501 メンブレン防水層の性能評価試験方法」による「3.2 耐衝撃試験」に準じ、おもりは 100g、高さは 1.5mとし、3 試験片各々のキャップ幅方向中心上に落下させるように行う。
- (6) 耐候性能試験は、JIS A 6008 (2022)「合成高分子系ルーフィングシート」に基づく促進暴露試験に準じる。
- (7) 上記以外については、成形伸縮目地工業会「成形伸縮目地材規格」の「7. 試験」による。